教育のぼりべつ

令和５年
3月3日
No.37

発行：登別市教育委員会 TEL0143-88-1100　〒059-0014 登別市富士町７丁目33番地

遠隔でバドミントン指導
講師は、あこがれの桃田賢斗選手



１１月２４日（木）、登別中学校において、バドミントン日本代表の桃田賢斗選手らが、バドミントン部の生徒にオンラインで技術指導を行いました。中学生のスポーツ実施率の向上やスポーツ環境整備の推進を目的としたスポーツ庁の委託事業「スポーツインライフ推進プロジェクト」の一環で、スポーツデータバンクとNTT 東日本が主催。

今年度、登別中学校では、東京とインターネットをつなぎ、国内トップレベルの選手が所属するNTT 東日本バドミントン部の監督などから、指導を受けてきました。



真剣にアドバイスを聞くバドミントン部員

３回目となった今回は、桃田選手が登場。スクリーンに映し出された桃田選手は「今日は一緒に楽しみましょう」と生徒に声をかけ、練習をスタート。桃田選手の世界レベルの動きを見た後、生徒たちは緊張しつつコートに立ち、お手本を意識しながらシャトルを打っていました。一人一人の動きを見た桃田選手からは、「胸の開きを意識して」、「自分の打ちたいポイントがずれている。打つ前の形を意識すると精度が上がると思うよ」など、丁寧に指導。憧れの選手からのアドバイスを受けた選手たちは、しっかりと意識しながら、次のプレーに生かしていました。



スクリーン上でお手本を見せる桃田選手



緊張しながらコートへ

令和４年度 文化芸術による子供育成推進事業（巡回公演事業）

「鎌倉能舞台」　〈能楽公演〉

11月30日（水）、登別市総合体育館において、市内８小学校の６年生が鎌倉能舞台≪能楽公演≫を鑑賞しました。

この能楽公演は文化庁の事業で、子どもたちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的に、平成28年度から行われています。

今年度は、「公益財団法人鎌倉能舞台」（中森貫太さんほか）のみなさんが、狂言「柿山伏（かきやまぶし）」、舞囃子（まいばやし）「船弁慶（ふなべんけい）」、能「敦盛（あつもり）」を演じました。

また、事前のワークショップでプロの能楽師から“謡（うたい）”の指導を受けた登別小学校の６年生が、本番の能「敦盛」の一場面に参加し、客席で一緒に謡いました。



能「敦盛」の場面



登別小学校６年生「謡」の場面

新入生説明会　～　どの部活に入ろうかな？

１１月２１日（月）、緑陽中学校において、富岸小学校・青葉小学校６年生のための新入生体験入学が行われました。最初に、中学校の先生から学習や生活のきまりについて説明を受けました。次に、中学校の各種行事や部活動などについて、生徒会役員からの丁寧な説明を聞いていました。その後、先輩達の各クラスを回って授業参観をしましたが、廊下からの見学となりちょっぴり残念な様子でした。

来年度の各中学校の入学式は、西陵中、緑陽中が４月６日（木）に、幌別中、鷲別中、登別中が４月７日（金）に予定されています。





令和４年度学校力向上に関する総合実践事業 第３回登別市地域協議会

登別市立幌別小学校　学校公開

１２月９日（金）、幌別小学校において「学校力向上に関する総合実践事業」学校公開が開催されました。

研究主題は「考えを表現し、よりよい学びにつなげる子の育成～個の学びが充実する算数科の授業の在り方～」。２年生「九九のきまり」の授業では、自分の考えをまとめ、友達と意見交流し、九九にないかけ算は、九九のきまりを使うと答えが求められること、４年生「小数のわり算」の授業では、図を用いながら自分の考えをペアで交流し、余りの大きさは、わる数より小さくなることを学習しました。

その後の地域協議会では、幌別小学校から、全校を挙げて取り組んできた研究の成果が報告され、市内外からの参加者による活発な協議が繰り広げられました。



２年生自分の考えをまとめ発表



４年生自分の考えをペアで交流

「国際理解講座～タンザニアでの体験談」

１１月２２日（火）、幌別中学校の全校生徒を対象に登別市主催の国際理解講座が開かれました。講師は、ＪＩＣＡ（国際協力機構）の青年海外協力隊員としてタンザニアに派遣された小越みずゑさん。日常生活や学校生活の違いなどについて、講義をしていただきました。新型コロナウィルス感染症対策として、３年生は体育館、１・２年生は各教室で画面を通しての受講です。

２年半、同国の中学校で数学の教師を務めていた小越さんは、教師経験のない中で、英語で授業をするのはとても苦労したそうです。日本との違いで驚いたことは「盗難防止のために図書館の本は貸出不可」「教科書は貸出制」など。日本の生活とタンザニアの生活では様々な違いがあることを知った生徒たちは、講座を通じて、世界には多種多様な文化や価値観があることを学ぶことができました。



自分の成長に役立つ５つの極意



１２月７日（水）、幌別小学校の６年生を対象に、スクールカウンセラーの尾野裕子さんが「コミュニケーション上達への道」をテーマに特別授業を行いました。

人との関わり方や自分の成長に役立つ「５つの極意」を紹介。

①聞き上手、話し上手になるべし　②言葉以外の情報も上手に使うべし
③引き算ではなく足し算すべし　④見る角度を変えて心を整えるべし
⑤困ったときは助けを求めるべし

TwitterやLINEなど、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の利用が広がっている現在、インターネットを介したコミュニケーションスキルが大切であることも学ぶことができました。

登別市議会議長　辻　弘之さんが特別講師「登別市議会の特色ある取組について」



１２月２０日（火）、登別市議会議長の辻弘之さんが特別講師となり、西陵中学校の３年生を対象に「議会について学ぶ」特別授業が行われました。登別市議会は昨年度、早稲田大学の研究所が行っている全国議会改革度調査で全国２位となっています。

辻さんは、20代で議員に当選した時、議会場がどこにあるかわからないほど、議会というものには無縁だったそうです。登別市議会が調査で２位となったのは、多様性の実現をコンセプトとしたことが理由の一つであることなど、スライドを使い、分かりやすく丁寧に説明していただきました。生徒にとって、議員さんの生の声を聞くことができる機会はほとんどありません。特別授業を通して、民主主義を身近に感じる貴重な経験ができました。

２年ぶりに実施された「スキー授業」!!

ゲレンデに元気一杯な子どもたちの声が戻ってきました。毎年、サンライバスキー場で実施しているスキー授業を２年ぶりに実施。２月１０日（金）の若草小学校は、登別市スキー連盟の方々と校区のボランテイアの方々が講師を務めてくださいました。班ごとに分かれ講師の話を真剣に聞いていた子どもたちは、楽しむだけでなく安全に、かつ技術をしっかりと身につけていました。今年は天候にも恵まれ、２月末までに市内全小学校の５・６年生（登別小は全校）で実施することができました。





スキーの指導を受ける子どもたち